



古事記所載の「須賀宮」八雲立つ日本初之宮
 「悪切り」「縁結び」「子授け」のご利益

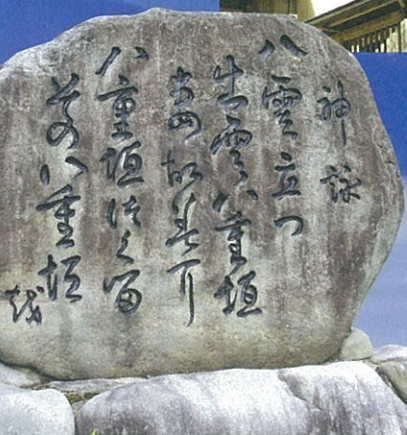
八雲立つ

出雲八重垣

つまごこみに

八重垣つくる

その八重垣を



須我神社の主祭神は、須佐之男命と奇稲田姫命、そしてその御子神、清之湯山主三名狭漏彦八島野命の三柱の神様であります。

須佐之男命と奇稲田姫命を祀ることから「悪切り開運」「良縁結び」「子授け」「五福授与」の御利益があります。古事記(和銅五年・七十二年)には、八岐遠呂智を退治なさった須佐之男命は、出雲須賀の地に至り宮造りなさいました。これにより須我神社は日本初之宮と申します。宮造りなさったとき美しい八重の雲が宮殿を取囲むように立ち上ったのをご覧になって

『八雲立つ 出雲八重垣 つまごこみに

八重垣つくる その八重垣を』

とお詠みになりました。この三十一文字の歌が日本最古の歌であることから、当社は和歌発祥の神社とされております。また『出雲』の地名はこの御歌から起こったので国名の起源ともなっております。

古事記や日本書紀に記されている「須賀宮」は当社須我神社のことです。さらに遠呂智の尾から出た、三種の神器の一つであります『天之叢雲剣』は、この地から天照大御神に献上なさったとの言い伝えもあります。

「夫婦岩」須我神社 奥宮



大中小の磐座が親子のように見える「夫婦岩」須我神社より約2キロの山腹に位置する



夫婦岩までの道中にある「神泉坂根水」不老長寿の効用の湧き水で身を清めて参拝する

神々の宿る八雲山—御室山の中腹にそそり立つ巨岩(夫婦岩)、大中小三つの磐座は、古代における須我神社の祭祀の地であり、須我神社奥の宮として崇敬され、参拝に訪れる人々を神秘の世界に誘い込みます。参道は「文学碑の径」として60基の歌碑句碑が建立されています。